

# 令和5年度 後期 学校評価について

令和6年3月  
京都市立七条小学校  
校長 新田 淳

2月に配布・配信いたしました「学校教育アンケート」にご回答いただきありがとうございました。今回は、およそ60%強（対児童数）の方々から回答を頂きました。後期は、前期の結果との比較を中心に、分析、考察しました。

※A…できている・分かる・思う等 B…大体できている等 C…あまり～できていない等 D…できていない等 各グラフは左から順にA B C Dの割合の値を表しています。

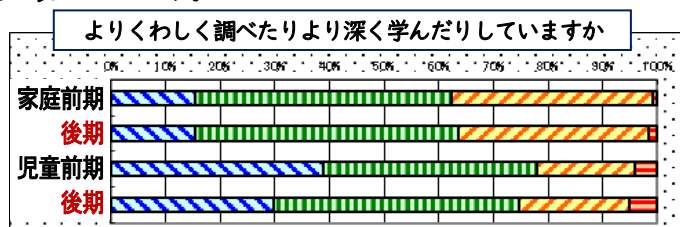
## 1. 探究力の育成を目指して

本校では、生活科、総合的な学習を中心に「探究力の育成」に取り組んでいます。これは、予測困難な時代を生きる子どもたちに、指示されたことだけ・知識として覚えることだけを学びとする

のではなく、自らが問いをもち、問題解決のために情報を収集し、整理分析しながら解決していく経験を積み重ねることで、より深く考えたり表現したりさらに新たに問いを持ったりする力をつけつつ、その過程で自分のよさに気づいたり自分にもできることがあるという自己有用感を高めたりできるように考えているからです。

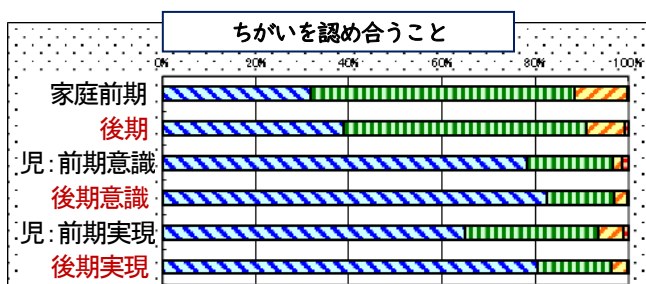
今年は特に、地域の皆様や施設の方々のご協力もあり、学校外に出て商店街や公園等、自分たちの身近な社会について探究する活動を多く取り入れました。指導者が引いたレールの上ではなく、自分たちにとって必要感、切実感のある課題を見つけ解決していくとする姿が見られます。

これまで比べると探究する楽しさを感じているようにも思えるのですが、「学んだことについて、よりくわしく調べたりより深く学んだりしていますか。」という問いに、A・B（できている・大体できている）と答えた児童の割合は、まだ75%程です。問いの文章と「探究」することが適切にリンクできていないという意見もあり、子どもたちが「探究力」を言葉として具現化できていないことも要因だと思われます。来年度以降も意図的に教育活動の中心に「探究」する機会を増やし、子どもたちが主体的・意欲的に学んでいけるように工夫していきたいと思います。



## 2. 思い合う～誰もが大切な存在～

学校教育目標の4つの柱の一つに「人権」について掲げています。「思い合う～誰一人とり残さない、誰をも大切にしよう～」という副題で、京都市の学校教育の重点「一人一人を徹底的に大切にする」という理念とも合致しています。今回、「豊かな心」の行動化という視点で、前期と大きな変化はなかった



のですが、「個性や多様性を認め合うことが大切である」という質問項目の児童の【実現度】を尋ねる問い「ほかの人の考え方や見た目、行動がちがっていたとしても、ふだんと同じように接していますか。」では、A（できている）が15%以上向上しました。A・B（できている・大体できている）と答えた児童の割合も【意識度】も含め96%を超えています。毎月の「こころひとつの日」や道徳科、学級活動等で人権への認識を高める教育活動を繰り返し積み重ねてきたことだけではなく、全校朝会で学年ごとに学んだことを発表したり授業の中で思いや考えを交流する機会を増やしたりしたことで、言語化、行動化にもつながってきたのではないかと考えられます。様々な人権問題が山積する社会の中で、これからも、各教科、特別活動等を通して子どもたちの人権意識を高めるとともに、我々大人が子どもたちにとってのよい人権尊重のモデルとなることを大事にしていきたいと思います。

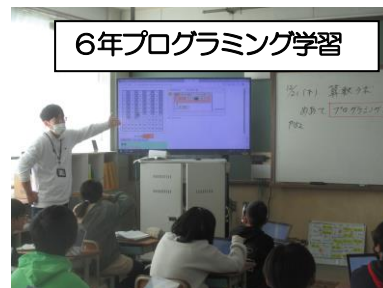
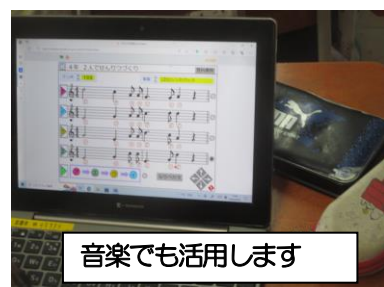


### 3. ICT機器の有効活用

「ICTを活用して学習をよりよいものにしていますか」という設問では、A・B（できている・大体できている）と答えた児童の割合が前期より少しですが上昇し、タブレット端末やインターネット環境等が子どもたちの学習にもはや欠かせないもの

になってきたことがうかがえます。特に、高学年では93%の児童が「よりよい学習のために活用している」と答えています。実際、何も言わなくても、自分から進んでタブレットを手にとりスピーチの資料としてプレゼンテーションを作ったりロイロノートで意見を交流したり調べ学習や図工の参考資料を集めるのにインターネットを活用したりすることが“当たり前”の光景になっています。

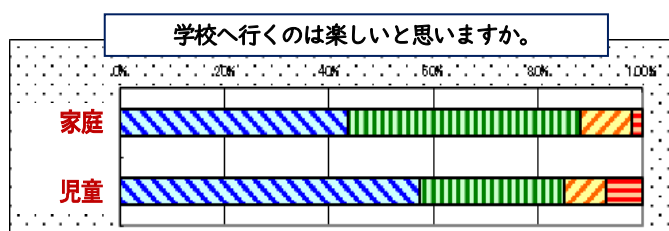
同時に、情報モラルについてももしっかり学ぶ必要がありますが、情報モラルを守らないと危険であることについての質問では、実に98%の児童が危険であることについて高い意識を持っている回答をしています。情報化社会の進化と共に、そのリスクについても確実に学びとして積み重ねているようです。



### 4. 「楽しい」と考える学校生活へ

いろいろな視点で自分自身を振り返ってみて、最終的に「楽しさ」という概念が、学校生活を支える重要な要因であると考え、今回、前期にはなかった「学校へ行くのは楽しいと思いますか」という質問を加えました。これは、6年生の全国学力学習状況調査や京都市のジョイントプログラムでの児童質問欄にある項目と同じ文言です。この問いには、85%の児童がA・B（思う・大体思う）と回答していました（保護者は87%）。一見、肯定的な回答が多いようですが、「学校生活は楽しいですか」と尋ねていた昨年度と比べると5%以上減少しているのです。しかも、A（思う）の割合は10%以上の減少となっています。質問の二





ユアンスが異なるとはいえ、授業や学校行事だけでなく、掃除や委員会、クラブ活動等についても、真面目に一生懸命頑張っていると感じていたのですが、15%…実数にすると約60人もの子どもたちが「楽しくない」と感じているのです。

「算数の〇〇が分からない」「体育のボール運動

が苦手」「友達とケンカした」等、“楽しくない”と思わせる要素については様々なことが考えられます。今まで以上に、全教職員で子どもたちの様子をより丁寧に見取り、情報共有しながら子どもたちの「困り」について敏感に感じ取っていきたいと思います。そして、「分からない」「できない」ことも伝えてよい、分かってももらえるという安心感が得られるようにしていくことも重要なことだと思います。

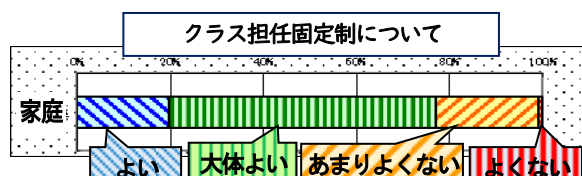


## 5. その他

今回も教育アンケートとは別に、ミニアンケートをお願いしました。今回は、特に全国的な教員不足や授業時間数

の大幅な超過等、学校現場における様々な課題が頻出している中、子どもたちの安心した学び、健やかな成長のために学校の在り方等についてどのように改革、改善していくか、という視点でお尋ねしました。

「VUCA（ブーカ）の時代」と呼ばれる予測不可能な時代の中、教育活動や教育システムも思い切った改革が必要です。これまでの担任固定制やクラス固定制、小学校の部活動等については、多くの方がまだまだその良さを実感しておられる結果となっています。しかし、単なる前例踏襲で続けるだけではなく、新しいシステムへ移行することも必要であるというご意見もいただきました。特に、電話対応時間については、もっと早く終了してもよいのではという回答が多く寄せられました。一方で、子どもたちにとって大切なことは、時間をかけて情報共有したいという思いもあり、これからも、議論を重ねながら改革、改善を進めていくことが大切だと感じました。子どもたちにとって、また、子どもたちを支える保護者の皆様や我々教職員、地域の方々も含め、だれもが安心して心地よく過ごせる学校改革に努めていきたいと思います。今後とも、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



他学年の担任が読み聞かせ



その他の質問や回答の一覧については、こちらをご覧ください。

<https://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/files/104500/doc/155427/5191176.pdf>

